

# 関西エアポートの運営概況と 最近の取り組み

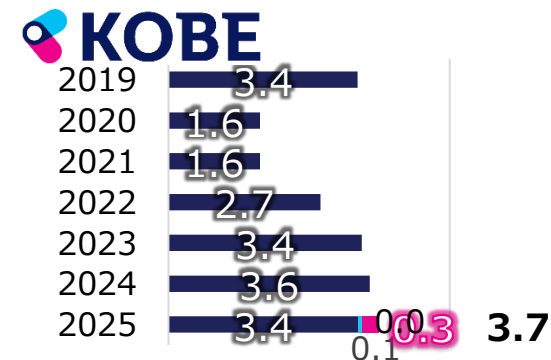
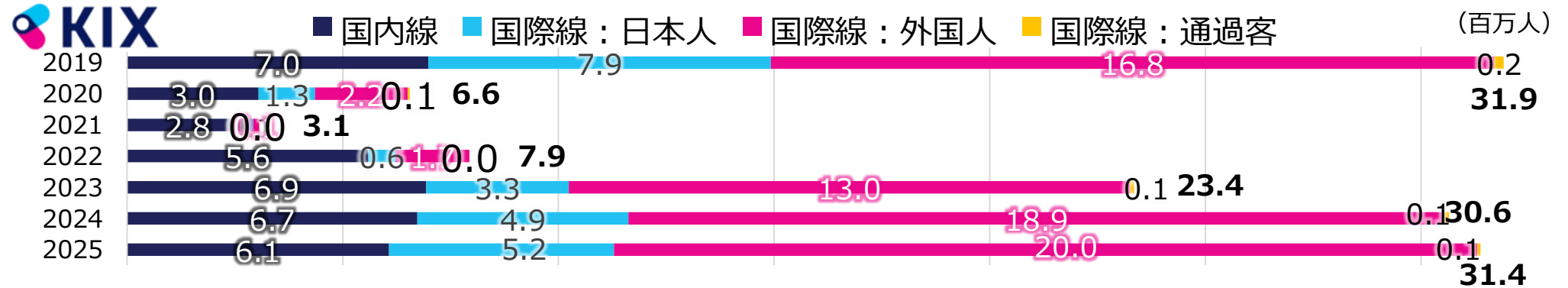
2026年1月15日



Shaping a New Journey



# 直近の旅客数の動き (暦年 比較)

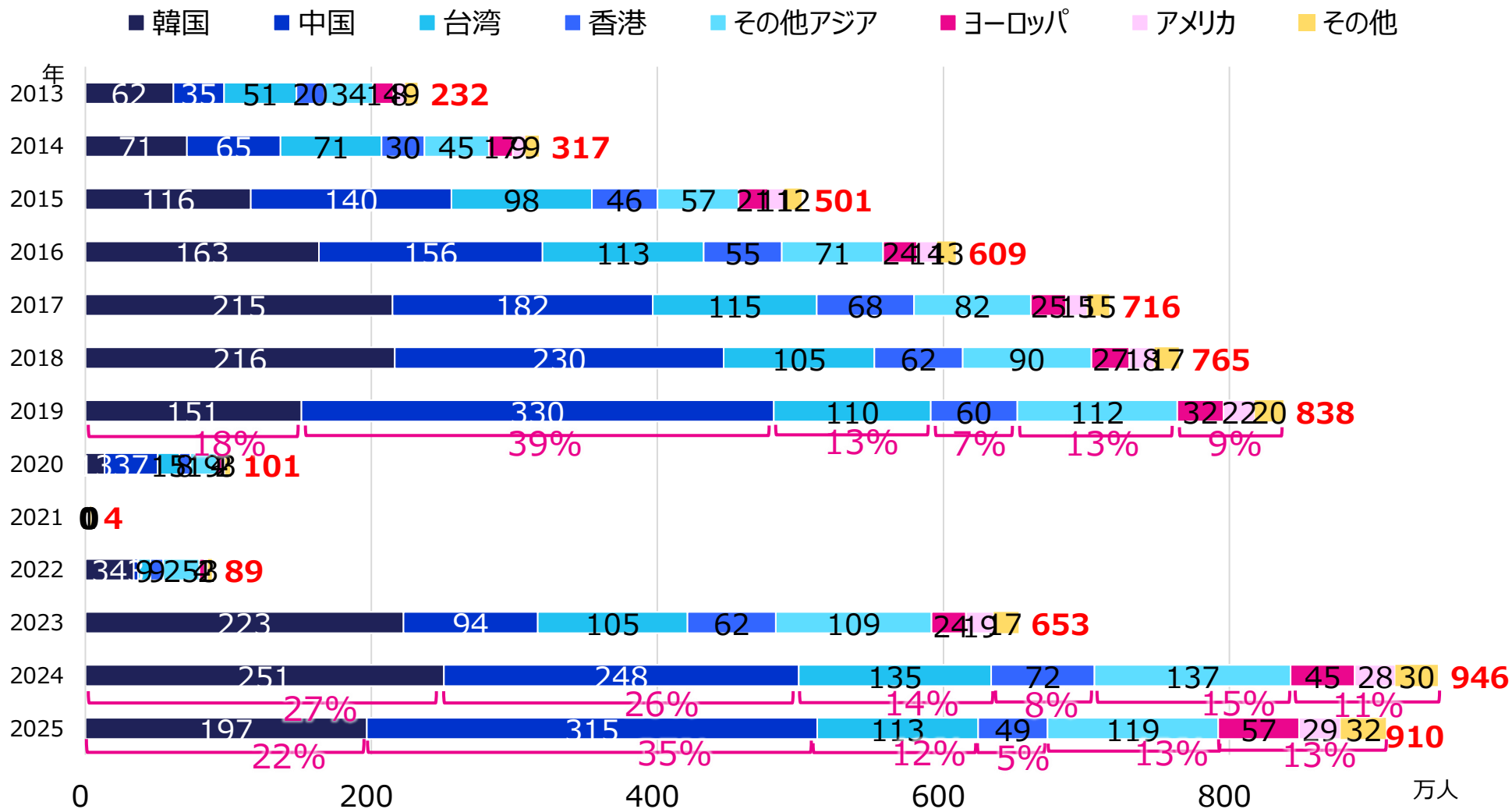


**3空港合計**

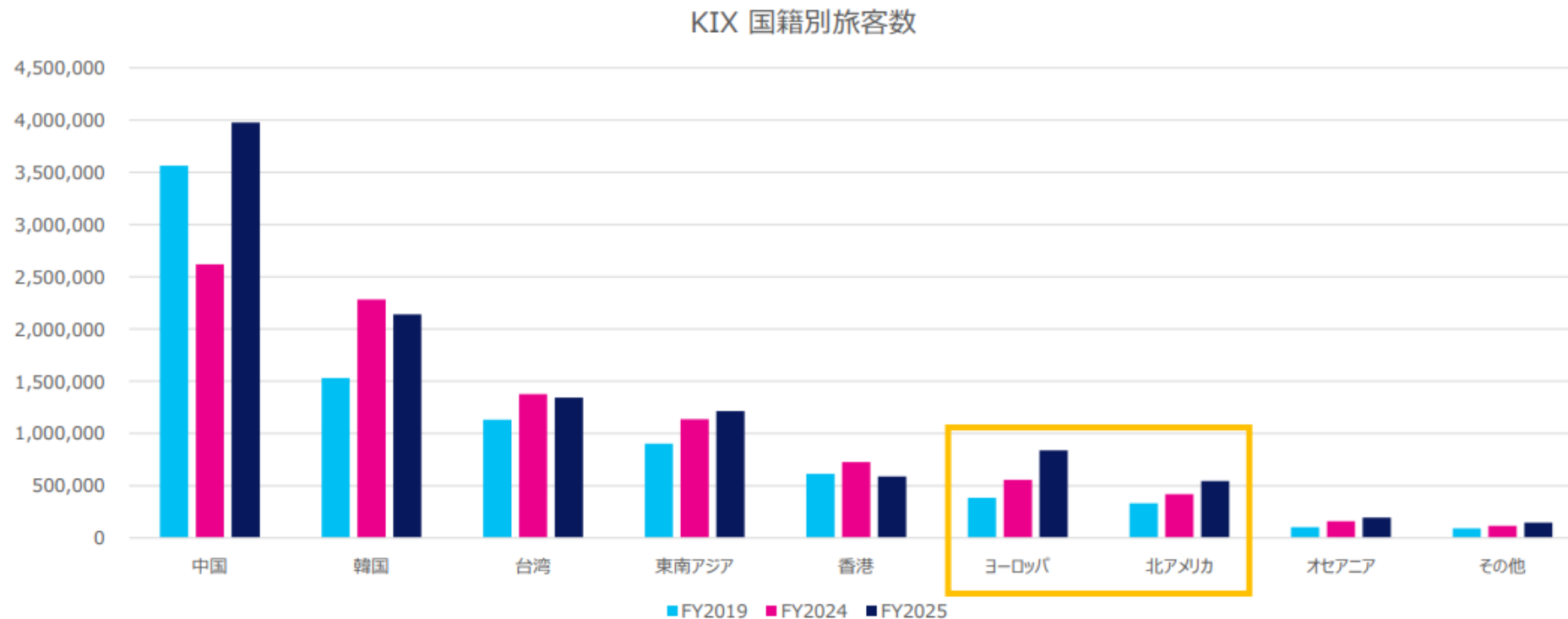
**2019年 5,178万人**  
**2020年 1,586万人**  
**2021年 1,147万人**  
**2022年 2,217万人**  
**2023年 4,154万人**  
**2024年 4,938万人**  
**2025年 4,996万人**

(2025年は1-11月分のみ)

# 関西国際空港 入国外国人人数 暦年比較



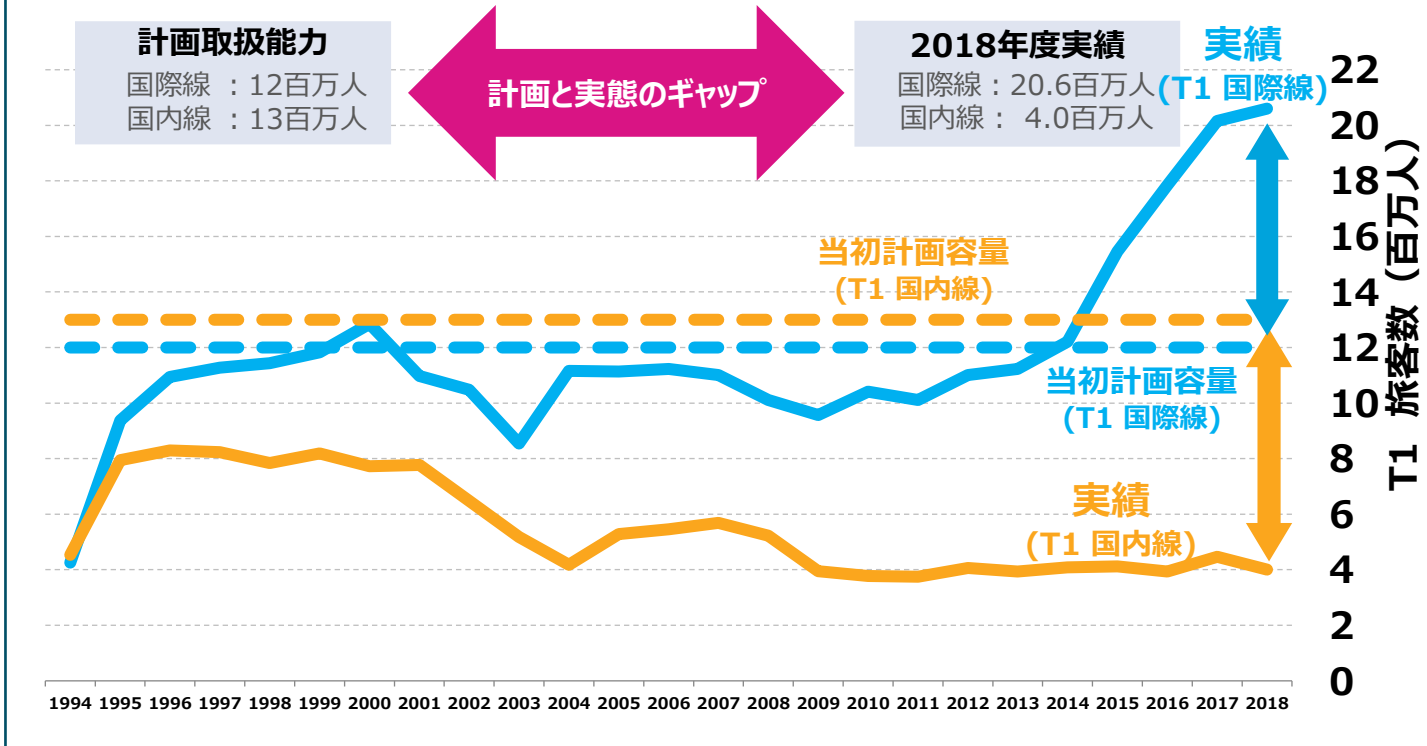
# 万博期間中の国籍別旅客数比較（2025年度 4-9月）



**大阪・関西万博の来場者数のうち、外国人は6%程度だが、万博期間中のヨーロッパ、アメリカからの入国者は、昨年と比較して顕著に増加。大阪、関西の認知度向上が期待できる。**

# T1リノベーション ～国際線キャパシティ拡大に向けて～

## 背景 第1ターミナルビルの運用状況



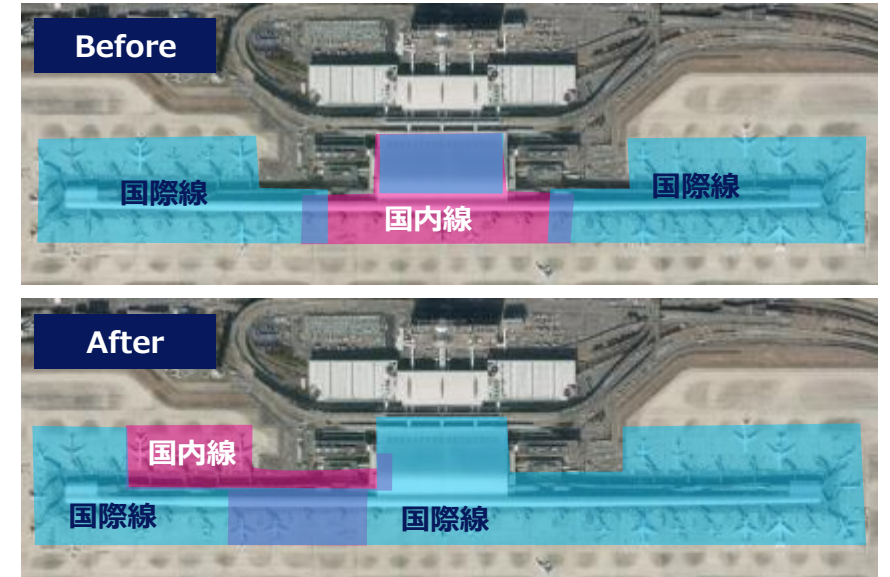
ギャップを解消し、既存のターミナルビルを最大活用

### ➤ 国際線キャパシティの拡大

リノベーションにより、T1とT2合わせて約4,000万人の国際線キャパシティ創出をめざす  
T1の国際線/国内線エリア配置の見直し

### ➤ エアサイドエリアの充実

国際線出発エリア（中央部）が約60%拡大



### ➤ 旅客体験の向上

ファストラベル等により、早く快適な出発手続きに  
国内線エリアにおける商業店舗拡充  
国際線出発エリアは異なる雰囲気的空間を提供 等

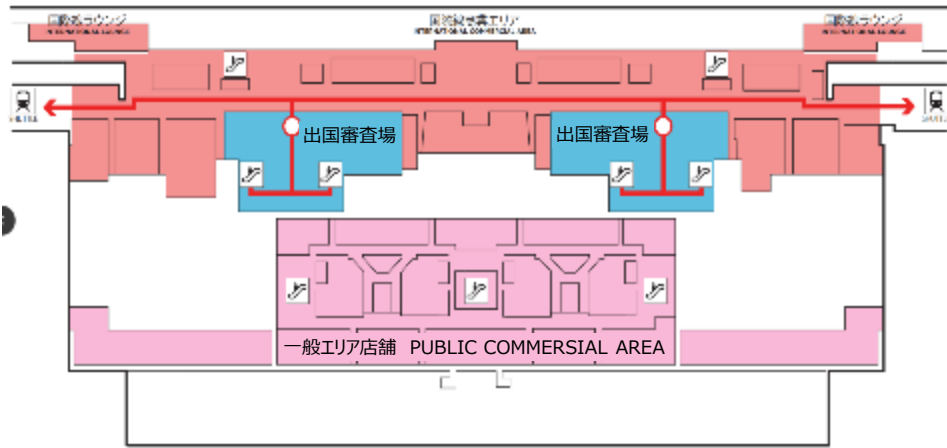
# T1リノベーションのスケジュール

大阪・関西万博 4.13~10.13

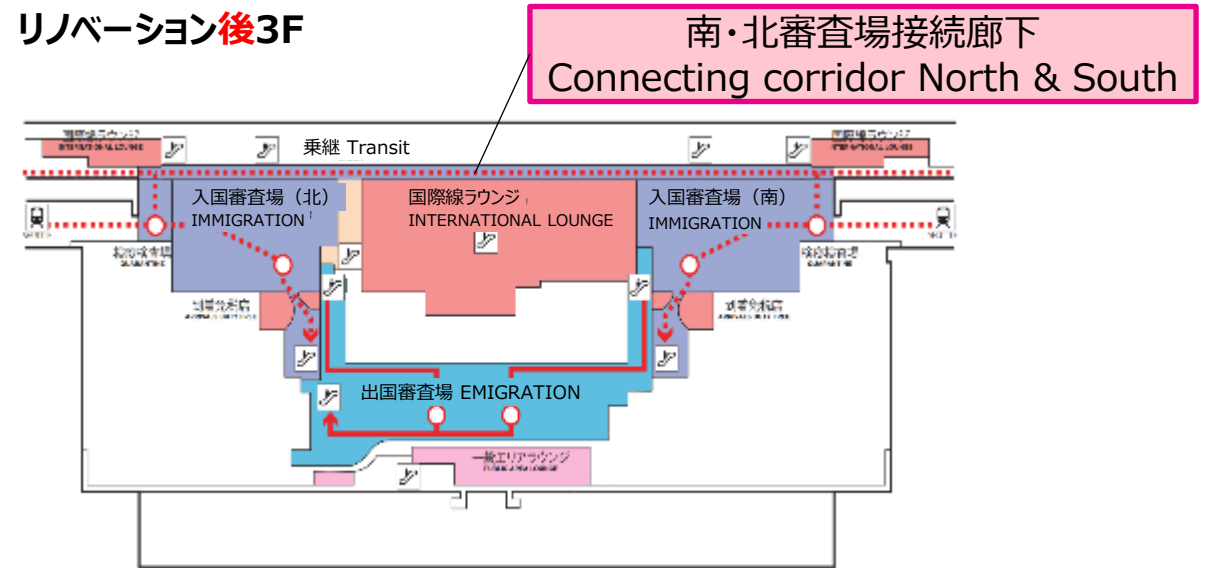


# 出・入国審査場の統合 (3F)

リノベーション前3F



リノベーション後3F



入国審査場南と北審査場との接続廊下



入国審査場 (南)

→ 国際線出発  
 ..... 国際線到着

# より速く、より快適に、ストレスなく、保安検査を通過

▶ 処理能力 約4,500人/時→6,000人/時

	Before	Grand opening
面積	約3,500 m <sup>2</sup>	約6,300 m <sup>2</sup>
スマートレーン	16台	18台*
長さ	15m	20m x 10 15m x 8

\*将来的に22台まで増設可能



# 再生可能エネルギーの導入 KIX・ITAMI Sora×Solar<sup>®</sup>



## 2025年2月～稼働開始！ 国内空港最大の発電量

- ✓ オンサイト型 PPA 方式を採用
- ✓ 発電された電力はターミナルビルをはじめとする各空港内施設で自家消費

### 年間発電量

(KIX・ITAMI合計28.4GWhの見込み)  
(一般家庭約9,000世帯相当)

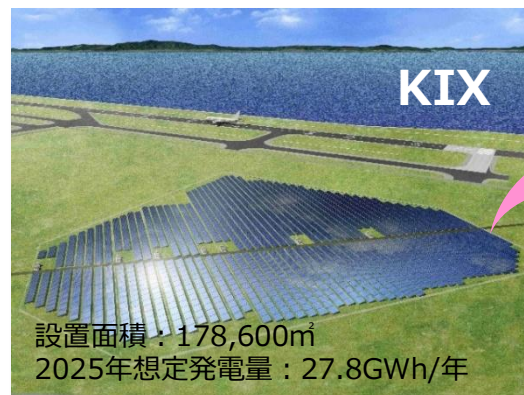
関西エアポートグループの年間消費電力

- ・関西国際空港：約**23%**に相当
- ・大阪国際空港：約**3%**に相当

### CO2削減量

(年間約1.2万トンの見込み)

関西エアポートグループ  
CO2排出量の約**15%**に相当



計画時のイメージ図

\* 本事業は、国土交通省航空局の「令和5年度空港脱炭素化推進事業費補助金（設備導入支援）」の支援を受けている

\*\* オンサイト型 PPA（Power Purchase Agreement）：

発電事業者（Kパワーサプライ合同会社）が、需要家である電力使用者（関西エアポートグループ）の敷地内に太陽光発電設備を  
発電事業者の費用により設置し、所有・維持管理をした上で、発電設備から発電された電気をその需要家に供給する仕組み

# 航空機の脱炭素化への貢献 – 持続可能な航空燃料（SAF） –

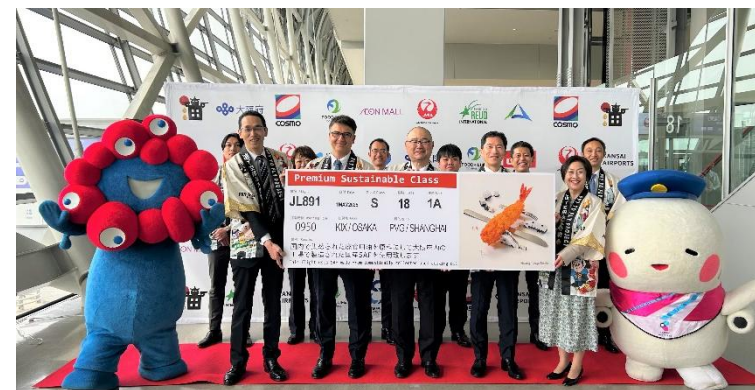


## 実用化された国産SAFのサプライチェーンの始動

- 関西国際空港において持続可能な航空燃料（SAF: Sustainable Aviation Fuel）の受入体制を構築
- 空港内の飲食テナントや周辺商業施設、自治体との協働による廃食用油回収
- 意識啓発イベントを通じたSAFの認知度向上への取り組み
- 2025年5月、関西国際空港において量産された国産SAFを初供給した旅客便第1号フライトを実現



イオンモールでの家庭用廃食用油の回収

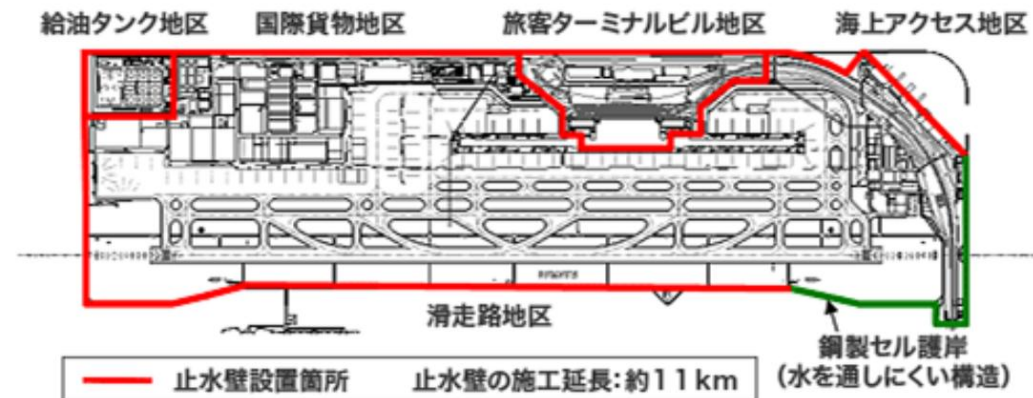
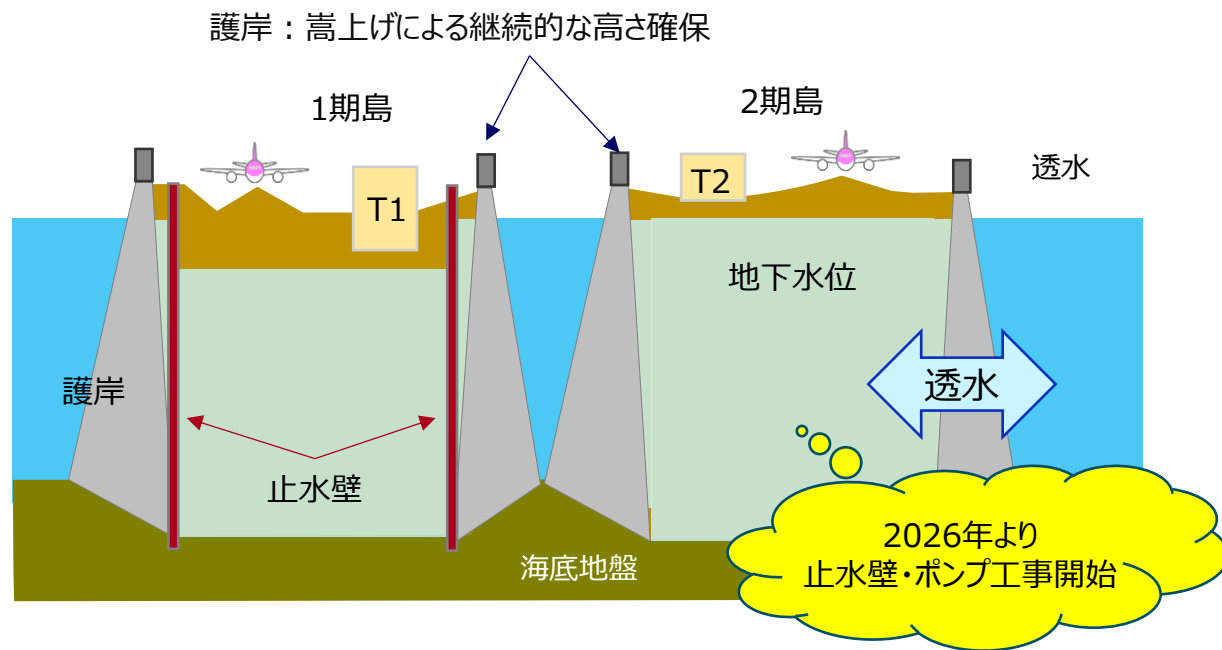


量産された国産SAFの初供給便フライト

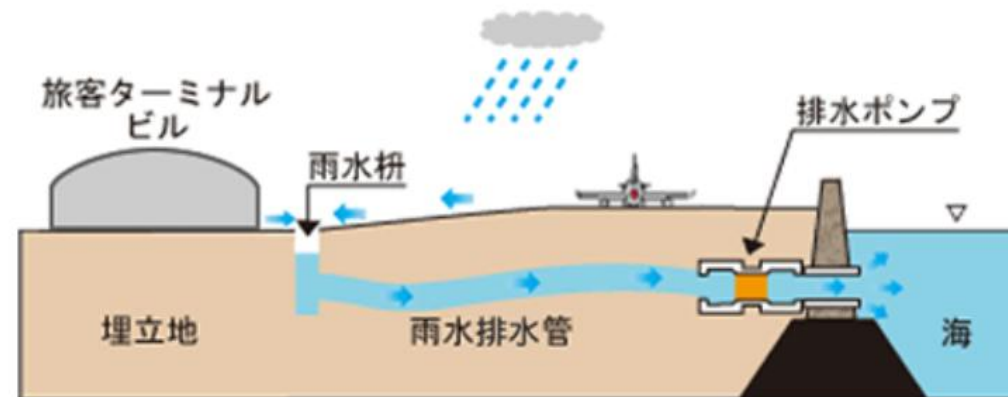


# 関空の地盤沈下対策

- 関西空港は、透水性の高い土砂で埋立てられた人工島上に設置されており、空港島の地下水位 ≒ 潮位 となっている。継続的な地盤沈下に伴い、その地下水が建物施設等に影響を及ぼすこととなったため、その対策として、1994年に供用を開始した1期島で止水壁が設置されている。
- またあわせて、1期島において沈下に伴って自然排水がなされにくくなった雨水排水経路に大型の排水ポンプが設置されている。
- 2007年に供用を開始した2期島でも継続的に沈下が発生しており、2026年より、止水壁や雨水排水ポンプ設置工事を実施する予定。



1期島止水壁：2000～2006年

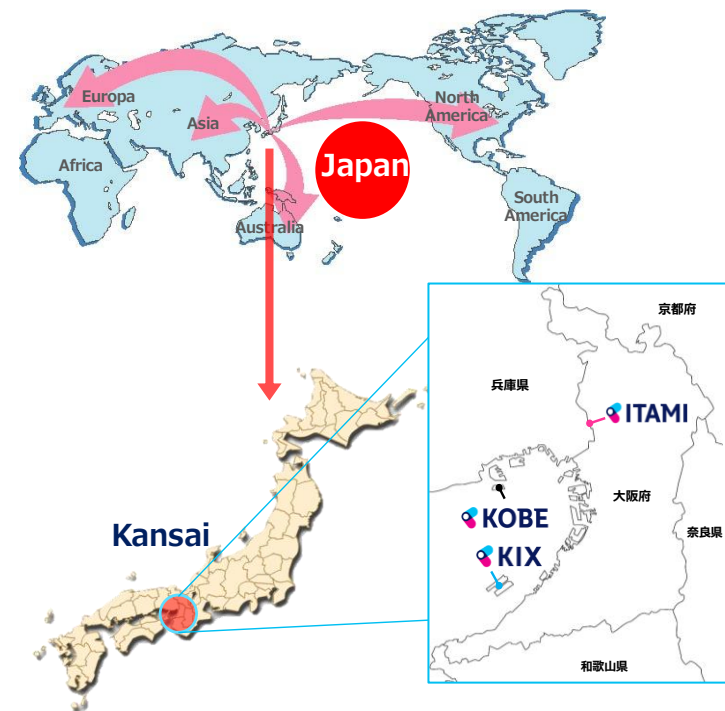


1期島雨水排水ポンプ：2003～2006年

# 関西エアポート株式会社

関西エアポート株式会社は、2016年4月1日に関西国際空港（KIX）、および大阪国際空港（ITAMI）の運営会社として事業を開始しました。

2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を開始しています。



運営者	<b>KANSAI AIRPORTS</b> 施設の運営権等を取得し、3空港を運営 運営期間 KIX・ITAMI : 44 年間 (2016年4月～2060年3月) KOBE : 42 年間 (2018年4月～2060年3月)
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

運営権設定

運営権対価

設置管理者	KIX・ITAMI : 新関西国際空港株式会社 (NKIAC) KOBE : 神戸市 滑走路など空港資産を所有
-------	---------------------------------------------------------------

## \* 関西エアポート(株)の主な株主

ORIX  
40%



VINCI Airports  
40%



その他企業  
20%

30社



# 空港の概要

## 神戸空港 (UKB)

旅客数	361万人 (2024年度)
運用時間	16時間 (7~23時)
滑走路	1本 (2,500 m)
発着回数	3.3万回 (2024年度)
その他	海上空港、面積 : 156ha

 **KOBE**



 **ITAMI**



## 大阪国際空港 (ITM)

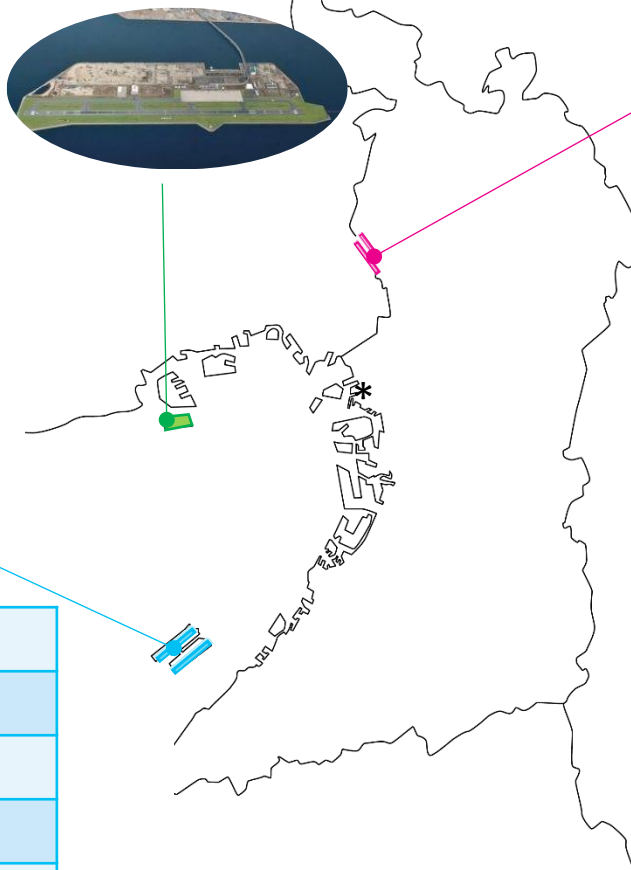
旅客数	1,545万人 (2024年度)
運用時間	14時間 (7~21時)
滑走路	2本 (3,000 m & 1,828 m)
発着回数	13.7万回 (2024年度)
その他	都市型空港、面積 : 311ha



 **KIX**

## 関西国際空港 (KIX)

旅客数	3,180万人 (2024年度)
運用時間	24時間
滑走路	2本 (3,500 m & 4,000 m)
発着回数	19.9万回 (2024年度)
その他	海上空港 面積 : 510ha (1期島) / 545ha (2期島)



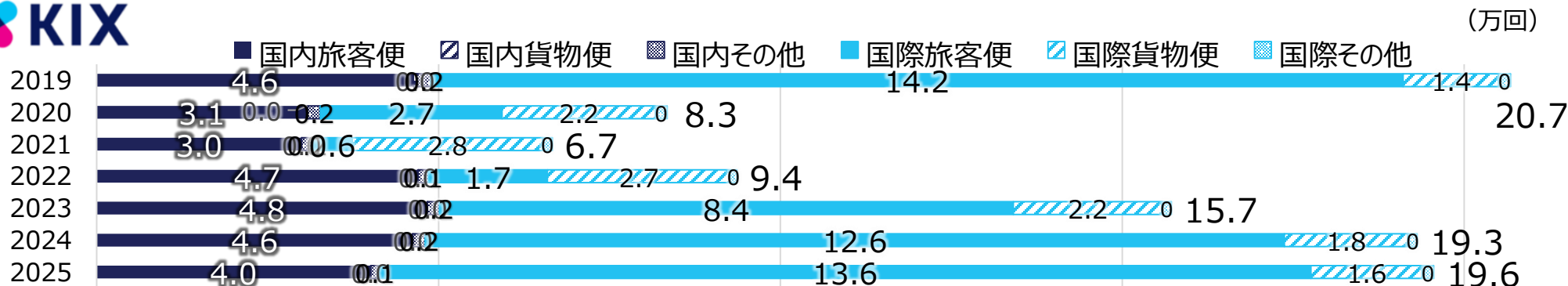
2024年度 発着回数合計  
**36.9万回**



2024年度 旅客数合計  
**5,086万人**

# 直近の発着回数の動き (暦年比較)

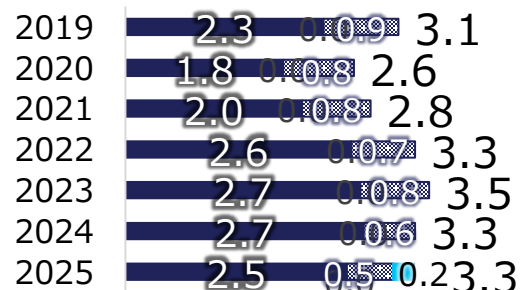
## KIX



## ITAMI



## KOBE



### 3空港合計

2019年 37.7万回  
 2020年 20.6万回  
 2021年 18.8万回  
 2022年 26.1万回  
 2023年 33.0万回  
 2024年 36.4万回  
 2025年 35.5万回

(2025年は1-11月分のみ)